

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

作成日：2025年3月29日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	国際関係			
講師幹事名	鈴木 庸一		大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学 期	R7(2025)年 春夏 ・ 秋冬	開 講 時 間	水曜 4～5時限	
【授業の目的・到達目標】 - 日本の対外関係における外務省の機能と職業外交官の活動を理解する。 - ロシアによるウクライナ侵攻、ガザを巡る紛争と中東における緊張の高まり、貿易摩擦の拡大と言った現象が国際社会の在り方にどのような影響を与えているのかを展望する。 - 拡散される種々の情報の裏にある国際社会の力学の本質を理解する目を養い、日本の利益を守る外交活動を理解し評価する視座を形成する。 【上記目的・目標達成方法】 - 外務省OB及び現役外務省員が講師として経験に基づき日本の抱える主要外交課題について解説する。 - 講義と演習、ロールプレイを通じて講師と受講生さらには受講生同士のインターアクティブな質疑応答と議論を通じて外交の現場での考察力、判断力を養う機会を設ける。 - 期末レポートでは日本の国益と国際情勢を判断するための自分なりの視座・基準をどのようにゼミを通じて養ったかを問う。 【授業の内容と計画】				
月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 (※役職は作成日現在)	講義内容
4/23	鈴木 庸一 @国立キャンパス	S50(法)	元駐フランス大使 元経済局長	(4 限) 本ゼミの序論として日本外交の主要課題を概観し、議論する。 (5 限) 主要な外交課題の一つである経済外交交渉について現状を展望し今後の展開と日本と国際貿易体制への影響を過去の具体的な貿易交渉を例に展望する。
5/14, 21	角 茂樹 @国立キャンパス	S52(商)	玉川大学、朝日大学、岩手大学 客員教授、上智大学客員研究員 元ジュネーブ代表部公使、国連、 バーレーン、ウクライナ大使	日本の安全保障： PKO 室長、防衛庁(当時)部員を務めた経験から、日本の安全保障に関して PKO 法、安保法制を武力の行使と武器の使用の観点から説明します。 ウクライナ情勢： 元ウクライナ大使の視点からロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与える影響について議論します。戦争法規 (Jus ad Belum)、人道法規(Jus in Bello)の観点からロシアのウクライナ 侵略がいかに現在の法秩序を崩壊させるものであるかについて論じます。日本への影響として憲法9条と国際法との関係についても触れたいと思います。 人権と人道法： 中国の人権問題が問題にされていますが、そもそも人権とは、何かについて元ジュネーブ人権委員会(現人権理事会)の日本

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

				政府代表を務めた経験から論じます。なぜ人権が重要なのかについて中世キリスト教神学にさかのぼり、世界人権宣言を中心に論じたいと思います。韓国との慰安婦の問題について、これを外交的にどのようにとらえるかについても論じます。 いずれの授業において、外交官の役割についても触れたいと思います。
5/28, 6/4	(4 限) 竹内 春久 @国立キャンパス (5 限) 齊藤 貢 @国立キャンパス	S50(経) S55(社)	元駐シンガポール大使 元オマーン大使 元イラン大使 関西学院大学客員教授	[5/28] 日本外交の基本的立ち位置：日本の置かれた地理的、地政学的条件を概観し、日本国憲法のもとにおける外交の制度的枠組み、指導原則を論ずる。 [6/4] 日本と近隣諸国との関係：テーマ「戦後の日本と近隣諸国との関係」概要：戦後の日本と近隣諸国との関係を中国、朝鮮半島との関係を中心に概観する。 講師は長年、中東の諸問題に関わって来ました。 05月28日の講義では一昨年以來、不安定化している中東の情勢と日本と中東の関係について説明します。講師は、中東7ヶ国で勤務し、英オックスフォード大学と米コロンビア大学の中東研究所にも留学しました。 06月04日の講義では、前半は前回の講義を踏まえ得て学生の皆さんから、日本と中東の関係についてどう思うか意見を述べて下さい。後半は、外交官の仕事について解説します。若しくは日本企業にとって重要な生産拠点であるタイについて説明します。
6/11, 18	川村 泰久 @国立キャンパス	S56(法)	元国連大使 前駐カナダ大使 元外務報道官 国連日本ユネスコ国内委員	(6/11)4 限のみ(15:15-17:00)講義「国際秩序の危機に立つ国連と日本外交」 国連常任理事国ロシアによるウクライナ侵略やガザでの戦闘に直面して国連の機能不全を批判する声が高まっています。加えて米国トランプ政権の「自国第一主義」が国際秩序に与える影響にも懸念が高まっています。このような国際情勢の大きな変革期における国連の役割と日本外交について講義します。トランプ第一次政権の国連外交に現場で関わって来た講師の経験を紹介しながら議論します。

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

				(6/18)4 限のみ(15:15-17:00)) 演習「台湾事案を想定した国連安全保障理事会に参加する(仮題)」 講義で基礎的な知識を得た後は、テーマ(例:台湾事案と国連安保理)を与えますので、皆さん一人一人が日本・米国・中国・ロシア他各国の大使として安全保障理事会に出席して国連として取るべき対応について自由に議論して下さい。国際会議でのプレゼンテーション、そして各国の利害を調整して一つの結論に導いていく外交をバーチャルに体験して下さい。
6/25	神谷 政廣 土方 康平 @国立キャンパス	H24 経 H27(商)	外務省大臣官房総務課課長補佐 外務省経済局経済連携課課長補佐	[4 限]外務省の組織体制に関する概要説明。 [5 限]日中関係 隣国で緊密な経済関係を持つ中国との関係は、日本にとって最も重要な関係の一つとなっております。一方、安全保障や経済面を含む多くの分野で急速に影響力を強める中国との関係においては、日本としても様々な懸念や課題があることも事実です。 ゼミの場合では、今後中国とどのように向き合っていけば良いのかという大きな問を含めて議論しつつ、本省や在外公館における実務の場での取組について講師の経験を紹介できればと思います。
7/2	坂本 紗恵子 山上修吾 @国立キャンパス	H24(法) 法	総合外交政策局人権人道課課長補佐 欧州局西欧課事務官	[4 限] 日英関係/若手職員から見た外務省 あまり広く知られていませんが、日本は現在、西欧諸国との関係を一層深化させています。特に英国とは、「欧州とインド太平洋の安全保障は不可分」というスローガンのもと、GCAP をはじめとする防衛協力にとどまらず、経済面での連携も強化されており、日英関係は近年ますます緊密になっています。本講義では、なぜこのタイミングで日英関係が重要性を増しているのか、国際情勢の動向を交えながら、インタラクティブにご紹介できれば幸いです。また、要すれば官庁訪問の様子や、外務省の1、2年目としてどのような仕事に携わっているかに

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

				ついても紹介します。 [5 限]外交とグルーピング、拡大する人権：国際社会においては、様々な形の仲間作り＝グルーピングがあり、重層的な構造の中で国益を追求していることに紹介し、日本の立ち位置を考えていただければと思います。昨今の人権理事会の決議を例に、規範形成や理想と現実のバランスについても議論できればと思います。通訳から見た外交の舞台裏も一部ご紹介します。
7/9	鈴木 庸一他各講師 @外務省、如水会館	S50(法)		5 限を外務省で行い、その後如水会館に移動して懇談形式で行う。 学期中のゼミで取り上げられなかった外交問題や地域、或いは論点について受講生からの質問、問題意識の開陳を受けて講師、受講生の間で議論する。

【参考文献】

下記図書のうちそれぞれの講師が個別に推薦するものはその旨括弧内に記載してありますが、今回の国際関係ゼミの一連の講義は相互に関連しており、また特定の事象を複数の講義で様々な角度から取り上げるところがあるので、いずれの参考文献図書も読んでおくことはゼミ全体を通じて有益です。尚各講師が特定の講義に臨むに当たり特に読んでおいた方が良いと考える図書や部分がある場合にはゼミ学生幹事より改めて連絡することがあります。

- 外交青書及び防衛白書(主として総論部分)
- 日本国際問題研究所 戦略年次報告 (日本国際問題研究所 HP より無料で見る事が出来る)
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power (要旨はネットで検索可能) 外交の本質を理解する上で有益
- 岡本行夫「現場主義を貫いた外交官」(朝日文庫) 現場感覚を持って外交官の問題意識を理解する上で有益
- 「危機の外交 岡本行夫自伝」(新潮社)
- 「ウクライナ侵攻とロシア正教会」角茂樹著 河出夢新書 (角講師推薦)
- 五百旗頭真(編)『戦後日本外交史』第三版補訂版、有斐閣アルマ 2014 年(竹内講師推薦)
- 田中明彦『アジアの中の日本』(日本の＜現代＞2)2007年 NTT 出版 (同上)
- 国分良成他『日中関係史』、有斐閣アルマ、2013 年 (同上)
- 齊藤貢、2022 年、「イランは脅威かーホルムズ愛嬌の大国と日本外交」、岩波書店 (齊藤講師推薦)
- 酒井啓子、2013 年、「中東の考え方」、講談社 (同上)
- 池内恵、2016 年、「中東の大混迷を解く サイクス・ピコ協定 100 年の呪縛」、新潮社 (同上)
- 「国際連合」明石康著 岩波新書 (川村講師推薦)
- 「ウクライナ戦争から見えてきた実現可能な安保理改革とは」 神余隆博 一般社団法人霞関会 (kasumigasekikai.or.jp)2023 年 9 月霞関会 HP 掲載(同上)
- 「米中対立」佐橋亮著 中公新書 (同上)
- 「国際秩序」ヘンリー・キッシンジャー著(2022 年 日経 BP 社)(同上)
- 「The Room It Happened-A White House Memoir」John Bolton 著 2020 年,Simon & Shuster 社 (同上)

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

【受講生に対するメッセージ、希望】

- 本ゼミを通じて国際情勢を理解する目を養うと同時に外交官と言う職業はどのようなものについての理解を持ってもらいたいと思います。
- 学生幹事を通じて講師より事前に課題が出される場合は準備してゼミに臨んでください。
- 基本は各講義とも前半は基本的知識についての講義、後半はラウンドテーブル形式の議論と言う構成になります。議論への積極的な参加を期待します。
- 各講義について自分なりの疑問点、特に関心のある問題について議論したいことを予め整理しておくの良いと思います。ゼミテンからの質問や問題提起があればそれを受けて講義を進めます。基本的な質問、初歩的な質問を歓迎します。
- 現役外務省員講師の講義日程については外交日程等の都合により変更の可能性があります。
- ある程度の数の希望者がいれば締めくくの総括講義に換えて講師一同と学生の間での軽食を挟んでの気軽な懇親の機会をゼミの終盤に如水会館で設けます。